

4. 【水域：増殖場】 余剰水域を活用したウニの身入り改善：木古内漁港（北海道木古内町）

概要

- 木古内漁港では、漁業者の生産額が少ないことや、高齢化が顕著であることが課題。
- 漁船利用が減少した漁港の水域を活用し、身入りの少ないウニを移植放流し、2か月程度給餌することで、身入りを改善。
- 泊地をウニの養殖場として活用することで、漁業者の収入増や、観光客の増加等が見込まれる。



背景

- 北海道日本海地域では、組合員1人当たりの生産額が全道平均の半分程度で、漁業者の高齢化も顕著。
- 木古内町内4漁港の統合・再編によって、木古内漁港（釜谷地区）では利用する漁船が減少し泊地に余裕が発生。

有効活用の内容

- 高齢者でも操業がしやすい漁港内の静穏域を活用し、身入りの悪いウニの身入りを改善させる実証試験を実施。
- 周辺の漁場にて採取した身入りの悪いウニを漁港の静穏域に移植放流。
- 餌には、餌用に養殖したワカメやマコンブの他、廃棄予定のガニアシを活用。
- 養殖場は、ウニのタモ網漁業体験の開催場所としても活用。

活用した漁港施設	水域
実施時期	平成29年度～
実施主体	上磯郡漁業協同組合
活用した事業	水産基盤整備事業（漁港機能分担・有効活用推進事業）
実施した手続き	特になし

効果

- 高齢者に優しい安全な就業環境の場の提供
- 短期間で漁業者の収入UP
- 増養殖餌料費の節減
- 観光客の受け入れとして、平成30年7月に秋田県大館市の児童40名を対象にウニ獲り体験を実施
- 令和2年7月には木古内町の地域住民を対象にキタムラサキウニ240kg(殻付き1,200個、販売価格18万円)を販売

木古内漁港（釜谷地区）

